

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし					2021年度 (令和3年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業	
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)				
農業の未来を託せる人づくり	1 未来につながる多様な担い手づくり	施策1 担い手の育成・確保	①認定農業者の維持（育成）並びに確保	認定農業者数	126	126	119	119	118	123	《△》 新規で地域の担い手である認定農業者として認定は行い、離農等で認定農業者から外れた農業者があったが、前年度より5名増加となった。	担い手支援事業
			②新規就農者の確保	認定新規就農者数（累計数）	4	21	8	9	11	14	《○》 新規就農者の確保をすべく、就農しやすい環境づくりを推進した。また、JA伊勢や三重県とともに就農希望者に対して経営面や技術面での情報提供を行った。さらに、農業・農村に対する理解を深めるため、地元農業者や教育関係者などと一体となり、将来の担い手となり得る子供たちに対し農業体験を実施した。	担い手支援事業 農業体験学習事業
			③新規就農者育成の取り組みを支援	—	—	—	—	—	—	—	《○》 関係機関等で行う新規就農者の育成事業に対して支援を行った。	伊勢のいちご産地強化事業
			④多様な農業の担い手を支援	—	—	—	—	—	—	—	《○》 補助金を活用し、地域の特色ある作物の作付を推進した。また、三重県と連携し、農福連携に取り組もうとする団体に対して必要な支援策等について協議を行った。さらに、JA伊勢が運営する市民農園の募集等を行い、多様な農業のニーズへの対応を行った。	農業振興事業
	施策2 農業の共同化、法人化の推進	農業の共同化、法人化の推進	①集落の営農の組織化を推進	集落営農組織化、農業経営法人化件数（累計数）	5	10	8	8	8	10	《△》 令和3年度における集落営農の組織化の実績は無いが、人・農地プランや中間管理事業の説明会等において、組織化の説明を行うことで集落営農の組織化を推進した。	農地中間管理事業
			②農業経営の法人化を推進								《○》 令和3年度には2名の農業者において農業経営の法人化が実施された。また、集落営農だけでなく、個人の農業者においても経営の拡大を実施する場合、その後の目標として法人化の説明を行うことで農業経営の法人化を推進した。	—
	自慢できる農作物づくり	2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり	施策3 経営安定対策の充実	①水田農業経営の安定	—	—	—	—	—	—	《○》 国の米政策において、平成30年度より、国・県からの主食用米の生産数量目標の配分は無くなった。しかし、主食用米の過剰生産は米価の下落により農業経営の悪化を引き起こすおそれがあるため、国の制度「経営所得安定対策」において転作の奨励を行った結果、国・県から示された主食用米の生産量の目安58.9%（転作率41.1%）を達成した。	経営所得安定対策推進事業
				②所得安定に向けた助成制度の活用	—	—	—	—	—	—	—	《○》 水田収益力強化ビジョンの2021年度の作付目標及び単収目標が達成できるように産地交付金を活用し、小麦の作付や大豆二毛作等に対して支援を行った。
③金融制度を活用した経営改善の支援				—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 担い手の機械・施設等の導入や更新の際に利用した農業近代化資金、農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、農業者の負担軽減を図った。

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし					2021年度 (令和3年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)			
自慢できる農作物づくり	2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり	施策4 農産物の産地化	①営農指導対策への支援	—	—	—	—	—	—	《○》 産地交付金において小麦の収量増大に寄与する取り組みに対しての交付金メニューを設定し、支援を行った。 また、産地交付金において青ねぎ、いちご、トマト、かぼちゃ、キャベツについて、他の野菜と比較し単価の上乗せを行うことで産地の維持、発展につながるよう支援した。	経営所得安定対策推進事業
			②野菜産地の維持・育成	—	—	—	—	—	—	《○》 新規就農者に対して給付金を交付することで支援を行うとともに、JA伊勢生産者部会等に対して補助金の活用推進及び調整を実施した。 また、関係機関等で行う新規就農者の育成事業に対して支援を行った。	農産物ブランド化推進事業 伊勢のいちご産地強化事業 担い手支援事業
			③花き産地の維持・育成	—	—	—	—	—	—	《○》 補助金を活用し、JA伊勢生産者部会に対して鮮度保持体制の拡充による品質向上の取組への支援を行った。	特色ある農産物づくり支援事業
			④果樹産地の維持・育成	—	—	—	—	—	—	《△》 新型コロナウイルスの影響により、例年開催していた生産者への講習会(座学、実習)が開催できなかったが、JA伊勢や生産者と果樹産地の維持に関する意見交換等を行った。	—
			⑤生産性の高い畜産の振興	—	—	—	—	—	—	《△》 JA伊勢や三重県と協力し、飼料用米の栽培推進やWCS用稲の導入によりJA伊勢管内の飼料自給率の向上を図り、畜産経営の合理化に向け取り組んだ。 しかし、飼料用米の栽培により飼料の確保を図ったが、市内の畜産農家との連携には至らなかった。	経営所得安定対策推進事業
	3 地域農業を支える生産基盤づくり	施策5 生産・出荷体制の充実	①生産・出荷施設の充実に支援	—	—	—	—	—	—	《△》 JA伊勢の共同出荷施設等の更新計画が無かったため未実施となったが、JA伊勢と連携を密に取り、適切な時期に共同出荷施設等の更新ができるよう、支援内容の検討を行った。	—
			②多様な販路の拡大を支援	—	—	—	—	—	—	《△》 コロナ禍において、販促イベント等を実施することはできなかったが、コロナ禍におけるPR方法について検討、調整を行った。	農産物ブランド化推進事業
	3 地域農業を支える生産基盤づくり	施策6 農業生産基盤の整備促進	①立地状況に応じた生産基盤の整備を推進	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。 また、整備の優先順位や工法的等地元と十分協議しながら、より効果的な事業推進に努めた。	農道整備事業【市単】 農業用排水路整備事業【市単】 農道整備事業
			②農業水利施設の整備と農業用水の確保を支援	—	—	—	—	—	—	《△》 国営宮川用水第二期事業関連県営事業について、予算に基づき計画的執行を行い、施工延長が増となった。 また、土地改良区等が行う農業用施設の修繕等の費用に対して補助金を交付し支援を行った。 農業用ため池等について、災害の影響が大きいため池(笹原池)の堤体改修事業に向けての実施計画の修正業務を行った。また、県営事業の東池の堤体改修工事に対し、事業費の一部を負担した。	土地改良事業補助金 県営事業負担金 農村地域防災減災事業

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし					2021年度 (令和3年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業		
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)					
自慢できる農作物 づくり	3 地域農業を支える生産基盤づくり	施策7 優良農地の確保と担い手等への効率的利用促進	①遊休農地の把握と防止・解消対策	遊休農地の割合	3.19%	3.02%	3.03%	2.97%	2.91%	2.74%	《○》 農業委員会等関係機関と連携し、遊休農地の把握に努めた。また、遊休農地の解消を目的に取り組もうとする農業者への支援を行い、遊休農地面積は対前年度比で0.17%の減少となった。	遊休農地活用事業	
			②優良農地の確保を推進	伊勢市農業振興地域整備計画における農用地面積	2,246ha	2,231ha	2,246ha	2,244ha	2,244ha	2,244ha	《○》 農地の集団性を確保し優良農地の保全に努め、農用地区域の面積は対前年度比で60aの減に留めた。	農業振興事業	
			③人・農地プランの作成と農地中間管理事業の活用を推進	人・農地プランの作成数	3地域	20地域	12地域	13地域	10地域	13地域	《○》 実質化された人・農地プランが、「西豊浜町森区」、「西豊浜町小川区」、「植山町」の3地域で新たに作成された。また、主に栗野町、小俣町、北浜・豊浜地区で中間管理機構を活用した貸付が進んだ。 なお、人・農地プランの作成地域数については、令和2年度に既存の5プランが1つのプランに統合となったこともあり、減少となっているが、実質的にプランが作成されている地域は増加している。	農業一般経費 農地中間管理事業	
	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	施策8 鳥獣被害対策の推進	①有害鳥獣による農産物被害の減少	有害鳥獣の被害額	15,785千円	7,210千円以下	17,566千円	17,728千円	17,565千円	14,581千円	《△》 伊勢市鳥獣被害防止計画に基づき、農地等に出没する有害鳥獣の捕獲を行い、被害のある地域に対し、防護柵等の資材支援を行った。また、地域住民へ適切な獣害防止策の説明を行う等、獣害に強い集落作りに向けての体制整備に取り組み、農作物被害の減少に努めた。 (R01被害面積1,424a、R02被害面積1,422a、R03被害面積1,423a)	獣害防止事業	
				安全・安心な食料の供給体制の構築	①食の安全・安心体制の構築への取り組み	—	—	—	—	—	—	《○》 国の農業施策である経営所得安定対策の中の産地交付金を活用してWCSの取り組みに対して支援を行った。	経営所得安定対策推進事業
				施策10 地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み	①ブランド化の方向性を定め、それに向けた取り組みを支援	市内産農産物のブランド化に向けた取り組みへの支援数(累計数)	9件	59件	15件	16件	17件	17件	《×》 令和3年度においては、農産物ブランド化推進補助金の活用がなかった。しかし、JA伊勢や生産者部会等とともに、課題や方向性の検討を行い、情報の共有を行った。
	②内外に向けて有効な方法での情報発信	—	—		—	—	—	—	—	《○》 市長訪問や広報いせ等を活用して市内農産物の情報発信を行った。また、市内にて、地産地消の店認定店のチラシを設置することで、地産地消に関する情報発信を行った。	農業振興事業 地産地消推進事業		
	③6次産業化など農産物の加工品開発を推進	—	—		—	—	—	—	—	《○》 令和3年度において6次産業化補助金を活用した支援を1件行うことができた。また今後も活用を推進していくため、各生産者部会等と情報の収集や課題の検討を行った。	6次産業化推進事業		

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし					2021年度 (令和3年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業	
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)				
自慢できる農作物 づくり	4 自慢できる安全・安心な農産物 づくり	施策11 地産地消の推進	①地産地消をさらに推進	学校給食への 地場農産物の 提供回数	2回	6回	8回※1 (12回※2)	4回	11回	5回	《○》 市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。 ・実施回数内訳：いちご1回、柿1回、青ねぎ3回	地産地消推進事業
			②農産物の直売活動の充実	民話の駅蘇 民・郷の恵 「風輪」・サ ンファームお ばたの来客者 数	257,000人	295,000人	206,585人	200,991人	202,429人	194,204人	《×》 一部でキャッシュレス決済を導入するなど、利用者の利便性の向上に向けた環境整備に取り組んだが、新型コロナウイルスの影響下でイベントができず集客が図れなかったことや農業者の高齢化に伴う出荷物の減少により、来客者数が減少することとなった。	地産地消推進事業 産直施設維持管理経費
			③市内産農産物の地元への流通を促進	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の農業者が市内農産物直売施設に農産物を出荷できるよう、関係機関と連携して推進を図った。	—	
		施策12 食育の推進	①農業体験や市内産農産物の学校給食への使用による食育の推進	農業体験学習 実施校数	11校	18校	15校	19校	3校	8校	《△》 市内小学校に対して、農業体験（稲作（田植え）、蓮台寺柿、横輪いも）の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について理解が深まるよう取組を行った。 ただし、新型コロナウイルスの影響により稲作（稲刈り）、青ねぎの農業体験は中止となったため、実施校数は減となった。 また、市内小中学校の、市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。	農業体験学習事業 地産地消推進事業
		施策13 地域資源と農村コミュニティの適切な保全	①地域資源を活かした多彩な交流の場を提供	—	—	—	—	—	—	—	《○》 音無山の照明灯や三郷山の高架水槽、絆の森のウッドデッキ等の維持補修を行った。また音無山、三郷山等の剪定等適切な管理を行い、交流・ふれあいの場を提供をした。	環境保全林管理経費 環境保全林整備事業（自然環境整備交付金）
			②祭り・伝統行事等継承への取り組みを支援	—	—	—	—	—	—	—	《△》 農業に由来する祭り・行事等の継承活動の調査・聞き取りを行い、今後の支援策を検討した。	—
自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり	5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり	施策14 多面的機能支払交付活動	①共同活動への支援	多面的機能支払交付金活動 組織化数	26	30	28	26	26	27	《○》 27組織に対し共同活動への支援を行った。	多面的機能支払交付金事業
		施策15 都市住民と連携・交流の促進	①都市住民と連携・交流の促進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 JA伊勢と連携し、市民農園の利用者の募集および啓発の促進を図った。 また、特産品のPRを通じて、生産者と消費者の連携・交流の場づくりを行った。
			②観光施策との連携を推進	—	—	—	—	—	—	—	《○》 観光施策との連携により、市内産農産物の情報発信を行った。	—

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《-》数値指標なし					2021年度 (令和3年度)	評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業	
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)				
自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり	5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり	施策16 農村空間の総合的な整備促進	①農道・集落道路の維持・保全	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。 また、定期的なパトロールにより施設の保全に努めた。	農道整備事業【市単】	
			②排水施設の維持・保全	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。 また、定期的なパトロールにより施設の保全に努めた。	農業用排水路整備事業【市単】 農業用排水路整備事業	
			③農村の保全・防災対策を推進	—	—	—	—	—	—	《○》 船倉排水機場の長寿命化を予定通り完了し、他の排水機場については適正化事業を推進した。 防災重点農業用ため池の笹原池について県営事業による改修工事実施に向けて事業計画の修正を行った。また県営事業にて東池の堤体改修工事を継続的に施工した。	農村地域防災減災事業 排水機維持管理経費 排水機維持管理経費（機能更新）	
		施策17 森林の保全と育成	①森林機能の増進などを支援	森林の間伐率	26.90%	28.00%	29.76%	30.71%	32.19%	33.93%	《○》 漁港東屋の木造化による県産材の利用促進を支援した。 また、森林経営管理の全体計画に基づき経営管理に向けての意向調査を行った。また、昨年度経営管理の意向をいただいた森林の境界確定を実施した。	環境保全林管理経費 森林整備事業（農林水産課） 森林経営管理事業
			②暮らしを守る森林づくりを推進	—	—	—	—	—	—	—	《○》 防風保安林である松林の害虫防除や下草刈り及び間伐を行い計画的な保全を図った。	森林整備事業（農林水産課）
			③市民との共生の森林づくりを推進	—	—	—	—	—	—	—	《×》 交流施設として整備した横輪町「郷の恵風輪」を核とした宮山を活かし、市と地元が連携し、桜まつり、ホテル鑑賞会などの自然鑑賞会、また絆の森は環境フェアにおいて森林学習を実施等予定されていたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。	環境保全林管理経費
	④里地里山の保全・活用を支援		—	—	—	—	—	—	—	《○》 音無山、絆の森、三郷山、横輪環境保全林といった里山において草刈、剪定等、地元市民等との協働による保全を図った。 地元組織による里地を活用した活動への支援を行った。	環境保全林管理経費 多面的機能支払交付金事業	